

山口県建設技術センター

この情報誌は土木技術に関する様々な情報を山口県及び市町の土木技術職員の皆様方に提供するものです。

情報誌 Vol. 49

発行：一般財団法人 山口県建設技術センター 発行日：平成25年11月22日



施工パッケージ型積算方式について
センター情報誌アーカイブス
建設技術センターの試みについて
平成25年度の研修前半を終えて

ごあいさつ

一般財団法人山口県建設技術センターの業務運営等につきましては、皆様方に日頃から格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当センターは、山口県及び県下市町の出資により平成7年4月に設立された財団法人で、建設技術者の資質の向上や、県及び市町が施行する建設事業の円滑で効率的な執行の支援を行っており、今年で19年目を迎えました。

また、このたびの公益法人制度の改正に伴い、平成24年4月1日からは「一般財団法人山口県建設技術センター」として新たなスタートを切っております。

新法人移行後におきましても、当センターは、県及び市町との連携を密にし、今まで培ってきた技術力に更なる磨きをかけ、良質な社会資本の構築に寄与することを目的とし、より多角的な観点から発注者支援機関としての役割を果たしていきたいと考えています。

最後に、私事ではございますが、菊本前理事長が平成25年5月末に退任したことに伴い、その後任として6月より理事長に就任いたしました。これまでに築いた県及び市町との信頼・協力関係の下、センターの役割をより発揮できるよう努めてまいり所存でございます。今後とも引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



理事長 山本 則夫

《表紙》 田布施川流域下水道整備事業(山口県)

流域下水道事業とは?

日常生活において下水道を利用されている方がほとんどではないでしょうか? そんな下水道ですが、市町等の地方公共団体が管理する公共下水道により排除される下水を受けて、2つ以上の市町の区域における下水を排除し終末処理場を有する流域下水道においては、施設の設置(本管及び処理場)やその維持管理などは県が行うことができます。山口県では現在、岩国市から周南市、光市を流れる島田川と田布施町と平生町の境を流れる田布施川のふたつの流域において、関係市町との協力の下、流域下水道事業に取り組んでいます。



田布施川浄化センターの概要

名称	構造・仕様
管理棟	延床面積1,244㎡ (事務室、中央監視室、理化学試験室等)
ポンプ送風機棟	延床面積1,957㎡ (流入ゲート、主ポンプ、送風機、脱臭設備等)
汚泥処理棟	延床面積1,898㎡ (汚泥濃縮、汚泥脱水設備)
消毒設備棟	建築面積76㎡ (紫外線滅菌設備)
オキシデーションディッチ	2池(幅5m×長さ155.6m×水深4.0m)
オキシデーションディッチ (高度処理)	1池(幅5m×長さ155.6m×水深4.0m) 増設
最終沈殿池	2池(φ21.5m×水深3.5m)、1池増設



田布施川浄化センターでは、平成24年度から処理施設の増設工事が行われており、建設技術センターは、起工設計図書作成の支援を行いました。現在、供用に向けて鋭意、工事が進められています。

施工パッケージ型積算方式について

平成25年度の設計標準歩掛表の改正があり、新たに「施工パッケージ型積算方式」が導入されました。すでに使用して積算された方もいらっしゃると思いますが、今回、その施工パッケージ型積算方式について、簡単に紹介したいと思います。

施工パッケージ型積算方式とは？

- ・「施工パッケージ型積算方式は、歩掛を用いない「施工単価方式」で、直接工事費（機械経費・労務費・材料費）部分をパッケージ化し、「施工パッケージ単価」を使用して積算するものです。
- ・つまり、これまでのように、機械経費、労務費、材料費を乗じた単価表を作成しないことから、積算作業の簡素化が図られると言えます。
- ・また、「施工パッケージ単価」を導入した部分については、この単価を用いて積算することとし、「市場単価方式」の導入時と同様に積上積算方式での積算は行いません（歩掛廃止）。

用語の定義・解説

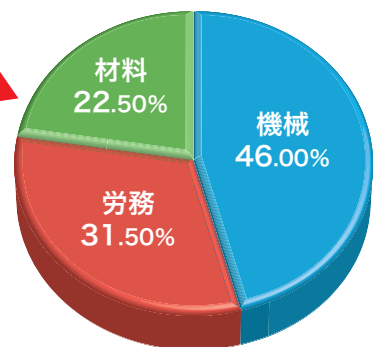
名 称	定 義 ・ 解 説
標準単価	・東京17区における基準年月の標準的な施工パッケージ単価 ・国総研HPにて公表（歩掛への記載はない）
積算単価	・工事地区、発注時期に応じて標準単価を補正した施工パッケージ単価 ・補正により算出できるので 非公表
代表機労材規格	・標準単価を設定した際に想定された代表的な機械・労務・材料規格 ・国総研HPにて公表（歩掛にもパッケージ毎に記載してある）
構成比	・標準単価毎に設定された代表機労材規格毎の金額構成比率 ・国総研HPに公表（歩掛への記載はない）
補正式	・積算単価算出の際に使用する補正式として 公表 （積算単価算出のプロセス）

構成比および補正式のイメージについて

* 構成比のイメージについて

【例】掘削で施工単価が200円の場合

内 訳 名 称	金額(円)	比 率	備 考
①バックホウ【山積0.8m ³ 】(平積0.6m ³)	92	①/④ 46.00%	機械
②特殊運転手	63	②/④ 31.50%	労務
③軽油	45	③/④ 22.50%	材料
④合計	200		



* 補正式のイメージについて

積算単価は、このような式で算出します

$$\text{積算単価} = \text{標準単価} \times \left[K \times \frac{\text{機械単価【山口県】}}{\text{機械単価【東京】}} + R \times \frac{\text{労務単価【山口県】}}{\text{労務単価【東京】}} + Z \times \frac{\text{材料単価【山口県】}}{\text{材料単価【東京】}} \right]$$

K：標準単価に占める機械費の構成割合 R：標準単価に占める労務費の構成割合 Z：標準単価に占める材料費の構成割合

ポイント

- ◆施工パッケージについてよくわからない場合は、H24年度の歩掛にある施工歩掛や単価表の内容とH25年度の歩掛にある代表機労材規格一覧とを見比べてみると、移行についてのヒントがあると思います。
- ◆また、歩掛表に掲載されていない情報（標準単価・構成比）があるので、積算チェックには、国土交通省国土技術政策総合研究所（国総研）のホームページで公開されている情報が必要となります。

アドレス → http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm

センター情報誌アーカイブス

センターが年間3回程度発行しているこの情報誌ですが、なんと、次回で50号を迎えます。

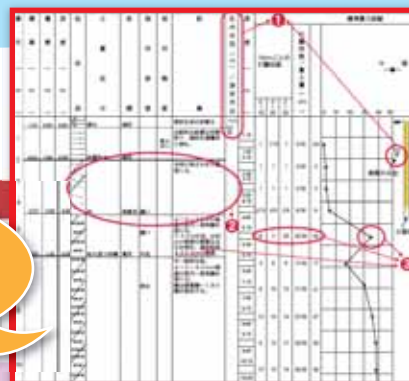
情報誌は、県や市町等の技術系職員の方へ、技術的な話題や最新情報、センターが行っている様々な業務等について紹介し、皆様の業務に少しでも役に立てるように内容を検討して提供しています。さらに、センター職員の紹介などを通じ、より身近に感じてもらうことも情報誌の役割のひとつでもあると思っています。

そんな情報誌ですが、実は、過去のナンバーが建設技術センターのホームページで見ることができます。基準や指針等が変更になり、表現や内容が古くなっているものもありますが、参考になる情報も多くあるのではないかと思いますので、一度、ご覧になってはいかがでしょうか？

トップページ 【 <http://www.yama-ctc.or.jp> 】

① **ここをクリック!!**
ID、パスワードは各職場でご確認下さい

これまでの情報誌の内容を見ることができます♪



建設技術センターの試みについて

ごあいさつにもありましたように、当センターは、平成7年4月の設立以来、県・市町の土木系公共事業の発注者支援機関として、建設技術者の資質向上、建設事業の円滑で効率的な執行の支援等を行い、良質な社会資本の構築に寄与してきたところですが、こうした支援にさらにプラスして、社会資本の整備に関わる団体との連携による官民一体での資質の向上や、いわゆる「つくる側」ではなく「つかう側」の視点に立ったイベントの開催など、新しいチャレンジも試行錯誤しながら行っているところです。

今回、それらの取り組みに関する以下のふたつの話題について少し紹介したいと思います。

Topic 1 山口県土木施工管理技士会との連携

山口県土木施工管理技士会が行っているCPDS指定技術講習会に講師として参加しています。今年度は、9月3日開催の基本講習Dコースの「品質管理」といったテーマで、内容としては、品質管理に関する基礎的な知識から、最近のコンクリートひび割れ抑制対策に関する話題など、参加者である受注者側の技術者にとって有益な情報になるような話題を提供させていただきました。

土木施工管理技士会とは？

国家資格である土木施工管理技士の社会的地位の向上と建設工事に必要な専門的知識や能力の習得を目指すことを目的に設立され、全国47都道府県他で計50の組織があります。山口県土木施工管理技士会は平成3年に設立され、企業の現場配置技術者を中心に、現在、会員数約2,650名です。

CPDSとは？

継続学習制度のことを一般に「CPD (Continuing Professional Development)」と言い、全国土木施工管理技士会連合会が企画運営している継続学習制度のことを「CPDS」と言います。加入者の学習履歴の記録や学習履歴証明書の発行が行われるシステムで、現在、全国で約15万人が加入しておられ、CPDSの学習記録は、公共工事における入札参加資格申請や一般競争入札（総合評価方式）における配置技術者の技術的能力の評価項目にも採用されています。

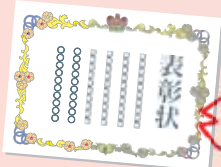


会場の様子

Topic 2 山口県建設技術協会イメージアップ賞(優秀賞)を受賞!!

昨年の情報誌で、一般向け現場研修会「夏休み!!橋の建設現場に行ってみよー」の取り組みについてお知らせしましたが、この取り組みを今年度の山建のイメージアップ賞に応募したところ、残念ながら最優秀賞は逃しましたが、見事、優秀賞をいただきました。

この取り組みが、建設業界に対するイメージアップの向上に繋がると評価された結果だと思っています。



授賞式の様子



座学の様子



宇部市道岩鼻中野開作線の橋梁架設現場

平成25年度の研修前半を終えて

平成25年度の研修も残すところあとわずかとなりました。

センターとしては、開催しているすべての研修について、基礎的な内容や最新の情報、タイムリーな話題等を提供し、充実した内容になるように努めているところです。

今回、下記の研修概要についてお知らせしますので、参加についてご検討下さい。

工事監督課程

2年に1度のサイクルで開催しています。前回開催であるH23年、H25年とも50名を超える参加で研修を行いました。研修は2日間の日程で行い、初日は工事監督に係る座学で、2日目は模擬工事検査を行い、参加者全員に工事成績の評定を行ってもらう内容でした。

市町から参加した方の中には、「日頃と違う様式を使用しての評定であったが、着目するポイントについての解説を通じ、理解を深めることができた」といった声もあり、工事監督研修のニーズが高いことがわかりました。



下水道研修

下水道研修は、3年に1回のサイクルで開催しています。研修科目の内容を見てみると、前回開催のH22年との違いがわかると思います。なかでも、維持更新業務の割合が増加していることから、「管更生工法の設計積算演習」がとてもよかったといった意見が多く好評でした。

このように、時代のニーズや最新情報、取り巻く環境の変化を敏感に感じ、今後も研修内容の充実に努めたいと思います。



平成22年度		平成25年度
下水道の基礎知識	●→	下水道の基礎知識
管渠設計の基礎知識	●→	管渠設計の基礎知識
土留め工法の選定	●→	土留め工法の選定
長寿命化計画の概要	●→	長寿命化・改築更新計画の考え方 および改築工法の選定 Re New
開削工法演習	●→	開削工法演習
災害対応および管渠に関する耐震設計の考え方		管更生工法の設計積算演習 New
下水道のPRについて		下水道工事における施工の留意点 New

今後も引き続き、当センターが行っている研修の概要について、積極的に情報発信したいと思います。また、次回の情報誌では、「平成26年度研修計画」についてお知らせできると思いますので、そちらの方も参考にさせていただき、ドシドシ、研修にご参加下さい♪

編集 後記

日本のどこかで、毎年のように豪雨による災害が発生しています。山口県でも7月下旬に萩市須佐、山口市阿東徳佐を中心に、非常に大規模な災害が発生しました。東日本大震災の時もそうですが、やはり、自然の前では、ひとのちからはとても小さいものです。ですが、復旧・復興していくのもひとの力です。こうした脆弱な国土と向き合い、ハード・ソフト対策も含め、将来にわたって持続可能な社会の構築に、私たちへ期待がかかっているのではないかと強く感じたところです。

【メールアドレス】 info@yama-ctc.or.jp

【ホームページアドレス】 <http://www.yama-ctc.or.jp>

〒753-0073 山口市春日町8-3春日山庁舎
一般財団法人 山口県建設技術センター

情報誌編集委員会 宛

【TEL】 083-920-1233 【FAX】 083-920-1288